

インターペット ～人とペットの豊かな暮らしフェア～ 開催される

平成28年3月31日(木)から4月3日(日)までの4日間、東京ビッグサイトにおいて、(一社)ペットフード協会及びメサゴ・メッセフランクフルト(株)主催による「インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～」が開催された。4日間の来場者は27,580人、犬や猫等のペットも10,009頭が飼い主とともに訪れ、会場は大いに賑わった。

本会として3回目の参加となる今回は、昨年に引き続き、ブース出展のほか、本会主催ステージ企画及びアリーナにおけるキッズ獣医師体験を実施した。以下に概要を報告する。

出展ブースでは、本年11月10・11日に北九州市において開催予定の第2回世界獣医師会—世界医師会“*One Health*”に関する国際会議(2nd GCOH)の関連行事として11月12日に同市で開催される「2016動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」、平成29年2月24日～26日に石川県において開催予定の「平成28年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(石川)」及び本年3月から運用を開始した「女性獣医師応援ポータルサイト」に関する展示のほか、日本獣医師会の活動紹介、関連グッズの配布を行った。

会場内のステージでは、3つのステージ企画を開催した。4月2日に開催した「ここまで来た日本の獣医療」では、本会の酒井健夫副会長を座長に、パネリストとして上地正実 JASMINE どうぶつ循環器病センター所長、平川篤ペットクリニックハレルヤ総院長・粕谷病院長、浅野和之日本大学生物資源科学部教授、弓削田直子ペットクリニックアニホス病院長を迎え、高齢化が進む飼育動物の僧帽弁閉鎖不全症手術、ペースメーカーの植え込み術、腫瘍摘出術、内視鏡外科術などの最新の獣医療技術が紹介された。これらはプライマリーケアと一体となって初めて効果が発揮されるもので、その連携した獣医療を提

供することにより社会に貢献できるものと結論された。

「ペットとともに元気に暮らそう—人と動物の高齢化社会に向けて—」では、本会の村中志朗副会長を座長に、パネリストとして小林元郎東京都獣医師会副会長、栗林のり子東京都議会議員(公明党)、野川亮輔(株)日本ペットオーナーズクラブ取締役社長を迎え、ペットとともに暮らすことが人の健康維持や地域社会に大きく貢献することを紹介するとともに、今後ますます進む高齢化社会の中で、ペットを安心して飼育する方法について考える講演が行われた。

4月3日に開催した「ペットが与えてくれるもの」では、本会の藏内勇夫会長、衆議院議員の鬼木 誠環境大臣政務官による挨拶の後、本会顧問で衆議院前議員の北村直人日本獣医師政治連盟委員長を座長に、パネリストとして橋本聖子参議院議員・自由民主党2020年オリンピック・パラリンピック東京大会実施本部長、岡崎朋美スピードスケーター・オリンピック銅メダリスト(長野大会)を迎え、北海道で牛や馬とともに育った日々の思い出や、厳しいスポーツ選手生活を振り返りながら、動物たちが与えてくれたものについて語り合うトークショーが行われた。橋本氏からは、かつて生家の牧場で飼育され、中央競馬で活躍した名馬マルゼンスキーが、また、岡崎氏からは、スケート選手としてはまだ無名に近かった高校時代に橋本氏に見いだされ、富士急行で花開いた選手生活が紹介されるなど、動物との暮らしを原点とする両パネリストの楽しい、かつ貴重な話に満員の聴衆が拍手を送っていた。

4月2日には、インターペットアリーナにおいて、東京都獣医師会及び家庭動物愛護協会の協力により、子どもたちを対象とした「キッズ獣医師体験」を開催し、79組83名の参加者が動物診療の雰囲気味わった。



図1 主催者代表挨拶をする藏内会長



図2 来賓挨拶をする鬼木環境大臣政務官



図3 「ペットが与えてくれるもの」ステージ風景



図4 ステージ上でスケーティングポーズをとる橋本氏、岡崎氏



図5 ステージを終えた北村顧問と橋本氏、岡崎氏



図6 「ここまで来た日本の獣医療」ステージ風景



図7 「ペットとともに元気に暮らそう」ステージ風景



図8 挨拶をする村中副会長



図9 ステージ企画を聴く満員の聴衆



図10 キッズ獣医師体験に参加する児童